
— 第11回日本海洋人間学会大会 — 東京海洋大学品川キャンパス白鷹館

海洋の広い分野の研究発表

9月24日と25日の2日間にわたり、日本海洋人間学会主催の「第11回日本海洋人間学会大会」が東京海洋大学品川キャンパスの白鷹館で開催され、全国から研究者が集い、それぞれの海に関連する広い分野での研究テーマについて発表を行った。セッション終了後には優秀賞の表彰が行われ、大会は盛会裏に終わった

＜特別講演＞東京大学大気海洋研究所 道田豊先生

「国連海洋科学の10年一幅広い目標達成にむけて」

＜講演要旨＞

国連総会における海洋に関連する決議に基づき「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」が2021年1月に開始された。持続可能な開発目標（SDGs）のうち、SDGs-14（海の豊かさを守ろう）および他の目標で“海に関連する部分”について、国際的に海洋科学の推進に注力することで効果的に目標達成に向かおうというもの。「海洋科学の10年」では、達成すべき社会的目標が7つ設定された。すなわち「清浄な海」「健康で強靭な海」「予測可能な海」「安全な海」「持続的生産の海」「誰もが利用できる海」そして「夢のある魅力的な海」で、それを達成するために取り組むべき10の課題が示された。これらの目標達成のためには、科学研究コミュニティに加え、海洋に関する諸活動に携わる幅広いステークホルダーの参加が不可欠であり、真に学際的な研究と分野横断的取り組みが望まれるというもの。

■テーマは日本海洋人間学会10年間の振り返りと展望

◇歴代会長によるパネルディスカッション

◇口頭発表セッション1～4の海洋に関する研究発表では

「木造帆掛けサバニ（糸満ハギ）の帆漕実践」

東京海洋大学海洋スポーツ・健康科学研究室 千足耕一 先生

2009年から参加している座間味島～那覇までの海峡を横断するサバニ帆漕レースや伊江島のサバニ大工、糸満市在住のサバニ大工との交流からサバニ製作の過程、そしてレースの実践など、海や船の魅力を交えて、サバニの奥深い魅力について発表された。

「海員だより」